

英語科における教育実習の到達目標の設定 (I)

松浦 伸和 猫田 英伸 池岡 慎 大野 誠
川野 泰崇 千菊 基司 多賀 徹哉 山岡 大基
山田佳代子 幸 建志

1. はじめに

(1) 研究の背景

教員の質の向上や質の保証をめぐる論議は最近盛んに行われている。それに関連して、大学における教育実習の在り方、とりわけその改善策についても多くの指摘がなされている。それは、中央教育審議会(2006)の『今後の教員養成・免許制度の在り方について』(答申)においても、「教職大学院制度の設立」や「教員免許更新制の導入」などと並んで、「教育実習の改善・充実」に対する提言がなされていることからもうかがえる。そこで重要な提言の一つは、「(教育実習)の履修に際して満たすべき到達目標をより明確に示す」ようなシステム作りの必要性である。

教育実習を含めた教員養成段階における到達目標の明確化は、質の高い教員を養成するための第一歩として必須の事項である。日本教育大学協会(2007)においてもその重要性の認識の下に、中学校教員養成の「学部段階のカリキュラム」における到達目標・確認指標を検討している。また、大学においては、すでにその開発を行ったところも見られる(例えば愛媛大学1999など)。

しかしながら、そのような先駆的試行においても、英語科における取り組みは未だ十分なものとは言えない。また、残念ながらその妥当性が検証されたという報告も管見する限り見あたらない。一方、目を海外に転じると、科学的な手法で開発された優れた事例を見ることができる(例えばカリフォルニア州のPACT: Performance Assessment for California Teachersの試みなど)。

(2) 研究の目的

上で述べたような背景の下で、本研究は、学部レベルで英語教員を養成する際に、教育実習における到達

目標を具体的に設定することを目的としている。

3年間に亘る長期プロジェクトの一環として第1年目に当たる本年は、「教科の指導能力」に焦点化して、優劣が明確な二つの授業を質的かつボトムアップ的な手法で分析することで、その構成要素を明らかにした。

本稿ではその結果を報告する。

2. 方法

(1) 評価対象者の決定

今回の授業分析の対象者は、平成19年度後期教育実習生、教育学部第三類英語文化系コースの男女各1名とした。この2名は、同じ実習グループ(当校は実習生をいくつかのグループに分けて指導)に属しており、指導者(教職歴20年)が実習中に観察して、明らかに「指導技術と能力」に差があると思われた実習生である。なお、「指導技術と能力」が本研究の対象となることから、この2名の実習生には、事前に授業に関する指導は行わなかった。また、授業は、担当クラスのみ異なり、それ以外の学年、教材、範囲、指導経験(実習時間)はすべて同じ条件で行なわれた(実習生が実際に用いた教材はAppendix 1~3に付している)。

(2) 「指導の技術と能力」の評価

当校の英語科教員は、CD-ROMに収録された2名の授業と教材および指導案(細案は除く)を用い、「中・高等学校教育実習の手引き」に書かれてある教育実習の評価に関する六つの観点(p. 18)から「指導の技術と能力」のみを焦点化して評価を行った。各教師は、収録された2名の授業を観察しながら、実習中に各教師が教室で観察して行うのと同じ方法で、評価対象となる場面だと思われることに対してコメントを残した。

(3) データの分析

後日、各教師が評価したコメントを持ち寄って、どちらの授業のものであるかがわかるよう印をつけたものを一つずつ読み上げながら、関連した評価をグルーピングした。そして、集まったコメントの中で多いもの七つを選択し、質的にかつボトムアップ的手法で分析を試みた。なお、次節の結果と考察は、当校英語科教員が分担してまとめたものであり、評価項目の見出しは、分析の時点で決定したものである。

3. 結果と考察

(1) 教師の英語

教師の英語については発音、文法・語法の正しさ、適切さに関するコメントが多くあった。具体的には、音声面では子音の区別（'s' と 'sh'）、語の強勢、文強勢、文法面では語形変化などの文法的な誤りが特に指摘されていた。当校の英語科教員がこれらの点を頻繁に指摘するその意図は、以下に示すある教員の言葉に表れていると思われる。

・説明・指示等の指導言で、文法・発音の面における英語の誤りが相当頻繁に観察される。All in Englishの授業を行う一つの目的は生徒の英語へのexposureを増やすことと思われるが、そうである以上、そこで生徒に与える言語データには細心の注意を払うべき。本時の授業ではrainforest, worksheetなどの語は不適切な発音が耳に残って生徒が学習してしまうであろう頻度で発話されており、明らかによくないのでマイナス評価。

つまり、授業者の英語は生徒たちにとって常にモデルとなるものでなければならぬのである。そのため、英語教師には質の高い英語を用いる能力が前提として求められることになる。

(2) 指導技術

優れた授業に見られる特徴として以下を挙げることができる。まず、全体的に生徒の集中力が持続するようにさまざまな活動が取り入れられている（例えば、リスニング活動にディクテーションを取り入れるなど）。そして指示の仕方についても、言い換えたり繰り返したりと、何をすべきなのかを常に生徒に意識させている。また、生徒がつまづいたときに発問を言い換えるといった対応が見られ、その結果、一部の生徒を取り残してしまうこともなく、クラス全体と上手くやり取りができている。加えて、「(7) 内容理解の説明（発問）」の項目とも関連するが、授業内容についても本

文中の情報の軽重がよく分析されており、ポイントを押さえて生徒に考えさせる配慮がなされている（例えば、内容理解からまとめの活動において、英語で発問することがらが内容理解の軸となっていたりする）。

反対に指導技術の面から見て良くない授業の特徴としては、生徒が学習活動に集中できず、生徒の学習意欲が高められていないということが挙げられる。例えば、単語を発音させる活動を一人だけにさせて残りの生徒がそれを聞くだけになっていたり、CDの音声を流すだけで、生徒が発音する様子をモニターしていないため非常に機械的になっていたりするなど、今一つ踏み込んだ活動になっていないような場面が見受けられた。また音読（コーラスリーディング）をさせる際の区切る範囲が長すぎるため、生徒が自信を持って声を出せないなど、学習段階に応じた指導ができていない。あるいはディクテーションの答えを確認しながら同時に言語面・内容面についての質問をするなど、生徒が情報を整理しづらくなっていたり、視覚教材（例えば絵など）を用いる際の配慮が十分でない（生徒全体が見ることができるように向きを変えない、生徒が十分に見る時間を与えない、など）という点を問題視するコメントもあった。

内容理解の発問の仕方についても、表面的なことを生徒から引き出すだけの活動に多くの時間を割くなど、指導内容の軽重付けができていないことや、（発問の流れがパラグラフごとに展開されているため、情報を探す範囲が狭く、）本文全体を繰り返して読む必要が実際にはなかったり、さらにはパラグラフ間のつながりを理解させる発問が見られないことを指摘したコメントがあった。また、生徒の内容理解の最終的な確認において、教師が生徒のワークシートの答えを確認するだけにとどまり、なぜその答えになるかの説明を行わないために、分かっていない生徒は分からないままになっているという状況や、ペア活動やグループ活動を取り入れる工夫がなされておらず、教師と生徒が1対1になってしまう状況（他の生徒は取り残されている）を問題として指摘するコメントがあった。

(3) 授業態度

教師が授業に臨む際のあるべき態度について言及しているコメントを一つの観点としてまとめた。生徒を活動に集中させるための教師の行動がどうあるべきか、という哲学が反映されているようである。寄せられたコメントから、望ましい行動は、以下のようまとめられる。

・教師は、活動中の生徒をよく観察すべきである。自分が意図した行動を生徒がしているか、常にモニタ

リングしないといけない。

- ・アイコンタクトを適切にとることで、生徒がより集中して活動に取り組めるはずである。
- ・発問してから答えを言わせるまでの間と、答えを言って次の発問に移るまでの間は、発問によって異なるものである。指導案作成の段階で、難易度もあわせて考える必要があるだろう。
- ・授業中の指示は、タイミングやその文言を十分に吟味すべきで、それが不十分な指示は混乱を生むだけである。生徒が安心して授業を受けられることが大切である。
- ・授業中、新たな活動を始めるときには、目標を述べることで生徒はより主体的に学習する存在になると考えられる。
- ・教師は教室の生徒を、学習する集団に変容させなければならない。そのために、どの位置に立てば必要な緊張感を生むことができるか、を考慮しなければならない。あるいは、生徒の発言が十分な声量でなされなかった場合、繰り返して全員で共有する必要もあろう。教師の発言の声量については、一番遠くに座っている生徒に直接確認する必要もあろう。
- ・教師は、生徒の理解が最大限になるように必要な措置を講じなければならない。口頭の説明のみで生徒に負担が大きすぎる場合、ワークシートや板書を工夫する必要がある。

(4) 授業内における諸活動のつながり

全体を通してパラグラフを一文ずつ扱うという手法に終始する場合、文と文、パラグラフとパラグラフの間の有機的な関係にふれることができなくなってしまうことが大きな問題となる。上述のようなスタイルを授業の大枠とする場合には特に、諸活動が単発で終わってしまわないような何らかの工夫が求められるであろう。具体的には、「スラッシュリーディングを行うにしても、『その活動を何のために行わせるのか』という点に加えて、『その活動が前後の活動とどのような関連を持つのか』という点についても十分に検討がなされなければならない」という主旨のコメントが複数あった。

また、内容理解→英問英答→要約という大きな流れの中で、易しいものから難しいものへとタスクを段階的に導入することによって、英語が苦手な生徒であっても授業についてくることができるように配慮することも重要であると考えられる。特に授業の最後の5分間を用いて、その授業で扱ったタスクの答えを利用しながら、サマリーをさせるという活動は、個々の活動を有機的に関連させ、また同時に、要約する活動の負

荷を下げるという点で効果的であると考えられる。このような活動の展開の仕方も、生徒たちに個々の活動を何のために行うのかを明確に意識させることにつながると考えられる。

(5) 生徒の応答・回答や活動への対応

授業を展開していくに当たって、常に、生徒一人ひとりを大切にしていくことと、クラス全体を指導していることを同時に意識しておかなければならない。指導者が、他の生徒への指示をしないまま、立ち往生している生徒に近づき、直接指導を行うような場面は作らないほうが良い。以下のようなコメントがあがっている。

- ・指名した生徒が答えられない場面では、その生徒にかかりきり（近づいて指導していた）になり、他の生徒が何もしていない場面が数多く見られた（生徒の反応が予測できていない）。
- ・指名した生徒との1対1対応が多く、その生徒の思考が教室全体で共有されにくくなっている。

では、複数の生徒がいる教室で、どのように生徒を大切にしていけばよいのか。例えば、生徒の発表の場面では、その発表に対して、「何が」「どのように」良かったのか、あるいは、不十分であったのかという評価や指導を簡潔に行うことである。次のようなコメントがあった。

- ・生徒の応答をきちんと評価あるいは全体に向かって確認してすすめている。
- ・なぜ、その答えになるのか、音読であればその音読の仕方でのよいのかどうか、など
- ・音読をさせたが、明らかに不十分な読みに対して、Good!はいかなるものか。何のためのタスクなのか、タスクの意図を明確にしてもらいたい。

次に、指導者が用意した「正解」さえ出ればよい、という態度で授業をコントロールするのではないことも身につけておかなければならないだろう。たとえ正解でも、あるいは、回答として不十分な場合に、さらに発問をすることで理解を深めさせたり、次への展開に近づけたりすることができる。

- ・生徒の“he loved the rainforest”を否定しなかった。“Love”という、大きく、かつ情緒的な言葉でかたづけられてしまったよいか。なぜ、“love”していたのか？“home”とは何か？という根源的な問

いがないので、浅簿なやり取りになってしまった。ここでこそ、英英辞書の“home”の定義の助けを借りるとよいだろうに。

授業における生徒への対応という点では、指導者が、常に、生徒の理解の程度や活動の質、進み具合などを把握し、場面に応じた対応をタイムロスすることなく行うことが大変重要である。例えば、発音指導・音読指導における生徒の誤りをすぐに訂正するなどの対応が適切に行われることが求められる。さらに、生徒が誤答した場合や、発問が理解できなかつたり、発問の答えがわからず困っている場面では、その状況が何に起因しているのかを瞬時に分析し、適切な指導法を選択し、実行できることが良質の授業を展開する上で必要である。単に指導者が最終的な答えを提示するのではなく、生徒が自分達で正解にたどり着けるような工夫をすることが望ましい。

- ・生徒の誤りをすぐに指導することで誤りの定着を予防している。ここでは、生徒が間違っって発音した単語について、すばやく取り上げ正しい発音に修正している。
- ・生徒が答えにくい発問に対して、段階的に理解できる工夫が見られない。
- ・生徒の回答への応答：You think the forest is dirty. OK. Now, let's read the reason about...→あて推量の回答に対し、“OK”の一言だけ。とりあえず生徒にいわせた、というだけで、“let's read...”に有機的につながっていない。発問するだけ時間の無駄、と言う感じ。
- ・生徒の誤答に対し、教師が自分から答えを言う。→Whatに後続する形に着目させて、辞書の用例を検討させるなど、せっかく辞書を使うスキルを育てるチャンスであったのに、みすみす逃してしまった。誤答への対応が未熟。
- ・生徒が答えられないと、次々に他の生徒を指名する。考えるポイントを示したり生徒同士で相談させたりするなどケアが必要。

(6) 生徒への対応

生徒への対応について全部で19件のコメントが集まった。その内、肯定的なコメントが1件で、否定的なコメントは18件であった。

肯定的なコメントには、「生徒の理解にあわせた速さで話している、読んでいる」と記述されていた。このコメントから、生徒に対する対応力には、生徒の学習状況を十分に観察していること、そして、その学習

状況に応じて適した指導が行われていることの2要素が少なくとも下位区分として存在するようである。

否定的なコメント18件の内、学習状況の観察の有無、そしてそれに基づいた指導の有無に関するものが8件と最も回答数が多かった。その中で「…教師が何をしているかよくわからない。生徒の状況を確認するのがよい」と「生徒の作業の進み具合を確かめる机間指導ではあったが、助けを必要とする生徒の援助にはなっていないかった」について、両コメントをまとめると、例え学習状況の観察が認められたとしても、それが指導に結びつかなければ生徒への対応力が低いと言えるようである。

指名後の対応について4件のコメントが寄せられた。4件とも、全体に質問を投げかけた直後に指名した生徒のもとへ近づき生徒の発言を聞こうとした教師の行動に対して、個別対応になってしまい全体が取り残された状態になると指摘していた。全体に対して投げかけた発問については全体で確認できるように工夫しなければ、一部の生徒に対して上手に指導したところで対応力不足と言わざるをえないようである。

同様に4件のコメントが得られたものが、発問と指名の時間の取り方である。発問の難度を無視した時間設定によりテンポの悪い授業になってしまうようである。この要因として、教師が生徒の英語学力を明確に理解しない、指導計画に記載された時間配分を意識しすぎたために起きたものと考えられる。

すべてのコメントを総括すると、生徒への対応力は、まず全体と個への対応に二分され、いずれも生徒をよく観察しながら、同時に計画していた授業方針を微調整することが必要であると伺える。

(7) 内容理解の説明(発問)

内容理解を進める手立てとしての発問については、「生徒の視点に立った発問がなされているか」という観点からのコメントが多かった。具体的な評価の基準としては、(1)その発問で生徒に理解させたい事項が明確であるか、(2)その発問で生徒の理解を表層的なものからより精緻なものへと導くことができるか、の2点に言及するものが多かった。(1)の基準からの肯定的コメントには、「テキスト内の特定の箇所を探させるのは、発問として、その答えにぶれが生じないので生徒の思考を誘導しやすい」「読み取らせるポイントが絞れているのでよい」、否定的なコメントには、「内容理解が目標となっていたが、どんな内容を理解させたいのかが不明」「発問の意図があいまい」などがある。(2)の基準からは、肯定的なコメントには「形容詞を見つけさせ、Chicoの気持ちにつ

なげるのはよい」「辞書を引かせたり、絵を利用した理解を試みたり、と、テキストを理解する道筋を、なんとか豊かなものにしようと工夫している」、否定的コメントには「なぜ“love”していたのか?“home”とは何か?という根源的な問いがないので、浅薄なやり取りになってしまった」「ワークシートベースで授業が進んでおり、生徒の疑問を揺さぶって理解を促す活動がほとんどない」などがある。また、(1)(2)ともに関わることとして、「教師が情報の軽重を意識しておらず、ありとあらゆる質問を行っているため、掴み所のわからない授業展開となっていた」や「どのように読み進めれば、いろんな理解度の生徒がそれぞれ満足するか、ということに考えが及んでいない」といった「指導内容の軽重づけ」に言及するコメントが多く見られた。このことは、発問という指導技術が、単に授業時に独立して発揮されるものではなく、その前段階である教材研究と密接に関わっているという認識に基づくものである。

おわりに

現在の教育実習の評価には、実習校の教員の「経験と勘」が少なからず反映されている。教育実習を、より充実したものにするためには、自動車免許を取得するときのように、指導案とその指導に対する細かな評価項目が予め準備されていることが必要ではないだろうか。本研究では、教員の評価が、何によって、あるいはどのように決定されるのかを明らかにすることで、到達目標の設定を行うことを目的にしているが、この設定が、実習生にとっては、より質の高い授業を目指す明確な指標となるはずである。

参考文献

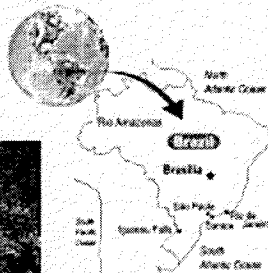
- 愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター (1999) 『大学にとっての教育実習』カリキュラム改革研究プロジェクト
 中央教育審議会 (2006) 『今後の教員養成・免許制度の在り方について』(答申)
 日本教育大学協会 (2007) 「教員養成カリキュラムの到達目標・確認指標の検討」研究報告書

Appendix 1 使用教材 Lesson 6 Part 1 MAINSTREAM ENGLISH COURSE I Second Edition (増進堂)

1 ①雨林に住む人々に政府は何を要求してきたでしょうか。②政府の要求に対して Chico やそこに住む人々はどのように答えたでしょうか。

Chico Mendez was born in the rainforest of Brazil on December 15, 1944. He loved the beautiful plants and animals there. As a boy, he picked fruit and was never hungry. He climbed trees and swam in the clean rivers.

For generations, Chico's family had been rubber tappers. They drilled small, harmless holes into trees and drained the liquid that would become rubber. Then they sold the liquid to rubber companies and lived a simple life.



ブムの木から樹液を採取する Chico

1 Brazil [brʌzɪl] (南米の共和国)	2 rubber tappers ブム液採取業者		
picked [pɪktɪd]	generations [dʒɛnə'reɪʃənz]	rubber [rʌbər]	tappers [tæpəz]
drilled [driːld]	harmless [hɑ:m'les]	holes [həʊlz]	drained [dri:nd]
liquid [lɪkwɪd]	sold [sɒld] < 売		

- 61 Where was Chico born?
 62 What did the Chico's family do for generations?

One day some people from the government came. They said they were building lots of roads into the rainforest. They were going to cut down millions of the trees and sell the wood. Then they were going to build very large farms on the open land, because the government was in debt and needed money. The people had lived in the rainforest for generations, but they had to leave there. What the government did was to pay the people money to move, and many left. Chico, however, refused to move.

"This is my home," he said. "I don't want to leave. My parents and my grandparents are buried here. My children are happy. Keep your money and go away."



エイオー新聞と話し合う Chico (中央) など

- 3 millions of ~ ~ a very large number of ~ ~ 4 be in debt I am in debt to my father for 300,000 yen. 5 G1 ~ what the government did 政府がしたこと
 7 pay ~ to do ... ~にお金を払って...させる I paid him 100 dollars to do the work.

government [gʌvənmənt / gʌvənz]	roads [rəʊdz]	millions [mɪljənz]
farms [fɑ:mz]	debt [deɪt]	leave [li:v]
grandparents [grænd'pæərənts]	bury, buried [baɪə]	refused [rɪf'ju:zd]

- 63 What was the government going to build into the rainforest?
 64 Did many people leave the rainforest?
 Think ① → 1行目の theyは何を指していますか。
 Think ② → 9～11行目は Chico がだれに対して言った言葉ですか。

Appendix 2 実習生 A が準備した Worksheet (2 枚)

Lesson6 Defender of the Rainforest Part 1 (1)

2007.09 (TUE) class _____ No. _____ name _____

☆☆☆ DICTATION and COMPREHENSION ☆☆☆

印を聞いて、() に当てはまる語句を口から通入で書きなさい。

WORD LIST

in debt my home for generations harmless drained
lots of roads refuse millions of packed farms simple
burned the rainforest the government hungry leave

Paragraph 1

- Chico Mendez was born in () of Brazil on December 15, 1994.
- He loved the beautiful plants and animals there.
- As a boy, he () fruit and was never ().
- He climbed trees and swam in the clear rivers.

Paragraph 2

- () Chico's family had been rubber tappers.
- They drilled small, () holes into trees and () the liquid that would become rubber.
- Then they sold the liquid to rubber companies and lived a () life.

Paragraph 3

- One day some people from () came.
- They said they were building () into the rainforest.
- They were going to cut down () the trees and sell the wood.
- Then they were going to build very large () on the open land,
- because the government was () and needed money.
- The people had lived in the rainforest for generations,
- but they had to () there.
- What the government did was to pay the people money to move, and many left.
- Chico, however, () to move.

Paragraph 4

- "This is ()," he said.
- "I don't want to leave.
- My parents and my grandparents are () here.
- My children are happy.
- Keep your money and go away."

Lesson6 Defender of the Rainforest Part 1 (2)

2007.09 (TUE) class _____ No. _____ name _____

☆☆☆ Questions & Answers ☆☆☆

本文を読み出しながら次の質問に英語で答えなさい。
※教科書を見ないようお願いします。

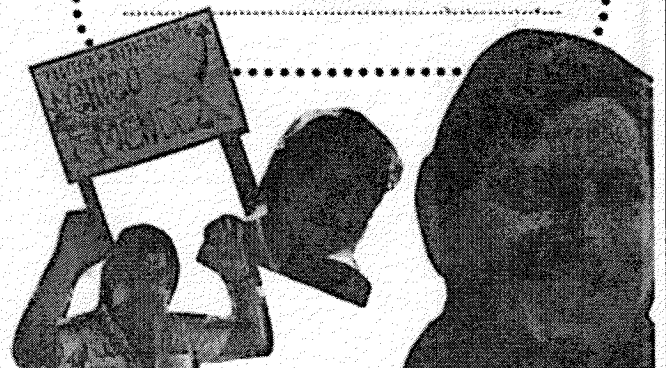
- How long had Chico's family lived there?
4 _____
- What did the government plan to build for making money?
4 _____
- What did the government order the people to do in the rainforest?
4 _____
- What did Chico do in answer to the government's order?
※in answer to ~ ~ ~に答えて
4 _____
- Why did Chico refuse to move?
4 _____

☆☆☆ SUMMARY ☆☆☆

英語 (対話程度) で本文を要約しなさい。

※黒板に書かれているキーワードを使いましょう。ただし、全てを使う必要はありません。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....



Appendix 3 実習生Bが準備した worksheet (1枚)

Lesson 6 Defenders of the Rainforest

Part 1

Summary

2027.10.10(WED)

class No. name

英語 (50 課程度) で本文を要約しなさい。

※ 黒字に書かれているキーワードを使いましょう。ただし、全てを使う必要はありません。

Question & Answer

1. As a boy, what did Chen do?

2. What had Chico's family been for generations?

3. What did the government order the people to do in the rainforest?

4. What was the government going to do?

5. Why did Chico refuse to move?